

山口きらら博開催中 ベゴニアの花園大人気！

M式ではこの夏、山口県で7月15日から開催されている山口きらら博に、山口県からの依頼で技術供与実施しました。山口県の農林水産課が出展している、きらめきみのりパークの中のテーマゾーン、「食と緑の物語館」にベゴニアの水耕システム施工と、栽培技術指導を担当しました。

660㎡の温室の中約半分、花回廊という名称のスペースで、ベゴニアが空中に162鉢、現在満開状態を維持し好評を得ています。システムは、三重県・なばなの里のベゴニアと同様、鉢の底面から強制排水するバキューム水耕です。壁面にはバイオトラスを

組み、ベゴニアを立体的に展示しています。このベゴニアのナイアガラは、棚状に底面灌水のレールを配置し、自動給水で管理しています。ベゴニア栽培の技術については、長島観光開発、なばなの里から指導を得ています。会場はプラスチックのダッチライト式温室で屋根面が棟から前面開閉できるタイプのものです。また室内は、ベゴニアの適温に合わせ、空調で25度以下に温度を保っています。来場者には涼しい休憩スペースを提供しており、夏の博覧会の暑さ対策にも一役かっています。ベゴニアの苗は去年の10月に播種しM式で管理したもので、

今年の4月に会場で定植しました。その後、現場担当者により管理され順調に生育、オープンに合わせて花を調整しました。

このベゴニアの栽培システムが採用された理由は、ベゴニアの花自体が持っている目を奪う豪華さと、それを維持するシステム及び栽培技術が一体となって提供できたからでしょう。もちろん山口県農林課の担当者の挑戦があつてのことです。9月30日の閉幕まで、鮮やかな花で訪れる人々に感動を与えてほしいと願っています。皆様も是非山口きらら博を訪れてみて下さい。

(施設企画部 石井桂子)



ゲート付近



会場マップ



ベゴニア満開の花回廊



昨年12月育苗段階



今年4月苗の出荷